医甲様式２

論文審査の要旨（甲）

申請者領域・分野　氏名	腫瘍制御科学領域　　顎口腔腫瘍病態教育研究分野 氏名　齋藤　勇起
指導教授氏名	木村　博人
論文審査担当者	主　査　中村　和彦 副　査　東海林　幹夫　　副　査　佐々木　賀広

（論文題目）Cognitive function and number of teeth in a community-dwelling population in Japan（地域住民における残存歯数と認知機能との関連）

（論文審査の要旨）900字程度

本研究は、一般住民を対象として残存歯数を調査し、認知機能評価法として精神状態短時間検査（Mini Mental State Examination；MMSE）を用い、歯の喪失と認知機能との間に関連があるか否かを検討した。さらに、被験者における歯の喪失の危険因子を解析した。対象は2012年度岩木健康増進プロジェクトに参加した中高年齢者462人（60歳以上、男性163人、女性299人）を対象とした。人口統計学的因子（年齢、性別、教育歴）と生活習慣（喫煙歴、飲酒歴）と既往歴をアンケート法や聞き取りにより調査した。方法は2名の歯科医師が座位で照明下に歯科検査を行った。残存歯数は、健全歯、う蝕歯、処置歯の総和とした。認知機能を測定するため、すべての参加者にMMSEを実施した。23点以下を認知機能障害とした。結果について認知機能低下群は対照群と比べて、有意に年齢が高く、教育歴が短く、TMIG-ICスコアが低く、残存歯数が少なく、喪失歯が多かった。その他の因子においては、有意差は認められなかった。残存歯数と認知機能低下との関連を評価した結果、交絡因子の調整後、「残存歯数0～10本」が認知機能低下の独立した危険因子であった。また、交絡因子無調整および調整モデルのいずれにおいても、高学歴とTMIG-ICスコア高値の被験者が認知機能障害のリスクが低かった。年齢、性別、教育歴、喫煙歴、飲酒歴、糖尿病・高血圧・悪性腫瘍の既往歴、TMIG-ICスコア、CES-Dスコア、MMSEスコアを含んだ重回帰分析の結果、年齢、教育歴、現喫煙歴、糖尿病の既往歴、MMSEスコアが独立して残存歯数と有意な関連を示した。本研究では、地域住民における歯の喪失と認知機能低下との関連について検討した結果、交絡因子の調整モデルにおいて、多数歯の喪失（残存歯数が0～10本）は、認知機能低下と有意な関連が認められた。更に、喪失歯数は年齢、教育歴、喫煙歴、糖尿病の既往、MMSEスコアと有意な関連が認められた。

よって学位授与に値する。

公表雑誌等名	Annals of General Psychiatry